授与番号　甲第1647号

論文内容の要旨

Usefulness of and Factors Associated with Global Assessment Scale (GAS) Scores in Suicide Attempters
(自殺企図者における総合評価尺度(GAS)の有用性と
その関連因子について)

(梅津美貴, 大塚耕太郎, 遠藤仁, 吉岡靖史, 小泉文人, 水谷歩未, 大沼禎史, 三田俊成, 工藤薫, 三條克巳, 福本健太郎, 中村光, 遠藤重厚, 酒井明夫)

(BMC Psychiatry(投稿審査中))

Ⅰ. 研究目的

自殺は多元的な要因により生じるため, そのリスクを一元的に考察するのは困難であり, 包括的な臨床評価が必要となる. 総合評価尺度Global Assessment Scale(GAS)は心理・社会的な全般的機能水準を評価する尺度で, 自殺企図発生との関連性が指摘されてきた. しかし, これまで自殺企図とGAS得点との関連を詳細に検討した報告はない. 本研究では, 自殺企図症例をGAS得点別に区分し, 背景因子, 精神症状, 企図後の対応などに関して各得点群の特質を抽出し, それに応じた具体的対応策を検討することを目的とした.

Ⅱ. 研究対象ならび方法

2006年4月1日から2013年3月31日までの7年間, 岩手医科大学附属病院一次二次救急外来と, 併設する高度救命救急センターを受診した208930件(精神科救急患者は11895件)を母集団とした. このうち, 自殺企図の診断基準を満たした1317件を研究対象とした.

対象をGASの得点に従って, 20点以下の低得点群, 21点以上から40点以下の中得点群, 41点以上の高得点群の3群に分類し, 調査項目に関して3群間での比較検討を行った. 調査項目は, 教育年数, 同居状況, 就労状況などの背景因子, 国際疾病分類第10改訂版「精神および行動の障害」による診断分類, 当院への初診もしくは再診, 受診時の精神科受診歴, 精神科通院継続の有無, 自殺企図前の相談の有無, 自殺企図歴(過去, 過去一年以内), 動機, 手段, ホームズ社会的再適応評価尺度(Holmes social readjustment rating scale)の生活変化単位(life change units:LCU), オックスフォード大学版簡易精神症状評価尺度(Oxford university version brief psychiatric rating scale:BPRS)の日本語版の総合得点, 身体的重症度, 処置内容, 救急外来における転帰などである.

3群間の比較において, 比率の検定にはχ^2検定, 平均値の検定には一元配置分散分析, 2群間の検定にはBonferroni法を用いた. また, GAS得点との関連因子を明らかにする目的で, 全調査項目を自殺企図前の項目, 企図後の項目に分け, 調査項目を説明変数, GAS得点群をそれぞれ従属変数として, 多重ロジスティック回帰分析を行った. いずれの検定においても有意水準は5%とし, 有意確率を数字で示した. すべての統計処理はSPSS 21.0 J for Windowsを使用した. なお, データは個人が特定可能な項目は除外し, データの管理や処理の過程でも個人情報の保護に配慮した. 本研究は岩手医科大学医学部倫理委員会の承認を得ている.

Ⅲ．研究結果

1．GAS 得点別の低得点群は 323 件，中得点群 539 件，高得点群 426 件であった．

2．低得点群では，高年齢，男性，無職，初診，気分障害，ストレス値の高いライフイベントにより初回の自殺企図で致死的な手段を選択し，既遂に至る例が多かった．低得点群出現のリスクとしては，男性，加齢，無職，ストレス値の高いライフイベントが挙げられ，他群と比べて自殺既遂に至るオッズが 5 倍であった．

3．中得点群では，女性，再来，精神科通院中，ストレス値の低いライフイベントで精神症状が重篤となり精神科入院する割合が高かった．過去の自殺企図歴が危険因子として抽出された．

4．高得点群では，若年，女性，有職者，神経症で対人関係を中心としたストレス値の低いライフイベントで非致死的な企図手段により帰宅となる割合が高かった．対人関係や相談が危険因子として挙げられた．

Ⅳ．結　　語

GAS 低得点群の特徴はこれまで指摘されてきた自殺ハイリスク者の特性と類似しており，初回自殺企図で致死的な手段を選択する可能性が高いため，医療機関と即応的連携や，周囲の関係者がゲートキーパーとして対応できるような教育的アプローチが必要と考えられる．精神科通院中の症例については，適切な精神医学的評価と並行して，ライフイベント等の社会的問題も評価したうえで，たとえば休職者に対する復職プラグラムのような社会的機能を向上させるアプローチも重要と考えられる．

GAS 中得点群は，ストレス値の低いライフイベントでも自殺企図が繰り返されるような潜在的リスクが想定される．ストレスに対するコーピングを高める精神療法的アプローチを継続的に行っていくことが重要と考えられる．

GAS 高得点群では，精神科通院を継続している割合が低いため，地域における身近な支援が重要と思われる．また，精神科通院中の症例では，自殺リスクを軽減させるために，疾病教育や通院継続の必要性を指導し，症状の安定維持を図ることが目標となる．

Ⅴ．学位申請後経過

※1　最終審査後，Journal of Psychiatry 18 巻 1 号に 2015 年 1 月掲載．

※2　査読による内容の変更は不要であった．

論文審査結果の要旨

論文審査担当者
主査　教授　井上義博（救急医学講座）
副査　教授　坂田清美（衛生学公衆衛生学講座）
副査　講師　星　克仁（神経精神科学講座）

総合評価尺度 Global Assessment Scale(GAS)は，心理・社会的な全般的機能水準を評価する尺度で，自殺企図発生との関連性が指摘されている．しかし自殺企図と GAS 得点を詳細に検討した報告はない．本研究論文は GAS の得点を 20 点以下の低得点群、21～40 点の中得点群，41 点以上の高得点群の 3 群に分け属性，家庭環境，社会環境，精神医療との関わり，自殺企図等詳細な項目について比較検討した．その結果低得点群は高年齢，男性，無職，精神科初診，気分障害，ストレス値の高いライフイベントで致死的な自殺手段等，中得点群は女性，精神科再来や通院中，ストレス値の低いライフイベントでの入院等，高得点群は若年，女性，有職者，神経症、ストレス値の低いライフイベントで非致死的な自殺手段等の特徴を有する事が判明した．さらに本論文では，各々に対する臨床的対応にも言及している．これにより GAS を用い，得点によって症例の傾向を把握し，適切な対応を計画する事が可能となった．新しい知見であり学位に値すると考えられる．

試験・試問の結果の要旨
GAS の得点と症例の傾向，それぞれの傾向に対する臨床的対応等について試問し，的確な解答を得た．学位に値する学識を有していると考える．

参考論文

1）慢性不眠の訴えに対する睡眠薬・抗不安薬の多剤大量投与で過鎮静を呈していた 1 症例　アクチグラフと polysomnography による客観的睡眠評価の有効性（横田美貴　他 12 名と共著）
精神科治療学，27 巻，9 号（2012）：p1217-1222.
2）Quetiapine 投与中に QTc 延長を来した統合失調症の 1 例（佐賀雄大　他 9 名と共著）
臨床精神薬理，16 巻，2 号（2013）：p255-260.
3）A study on the relationship between chief complaints of patients admitted to psychiatric emergency services and their diagnoses end outcomes（精神科救急における受診時主訴に関する背景因子及び精神医学的診断からの検討）（冨沢秀光他 7 名との共著）
岩手医学雑誌，65 巻、2 号（2013）：p97-111.
4）Aripiperazole と valproate の併用が有効であった双極性感情障害の 1 例（水谷歩未他 9 名と共著）
臨床精神薬理，16 巻，7 号（2012）：p1051-1055.
5）東日本大震災を契機に治療導入された統合失調症未治療例（吉岡靖史　他 4 名と共著）
臨床精神医学，41 巻，9 号（2012）：p1111-1114.